

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	板橋区徳丸 2 - 3 0 - 1 6 生活クラブ館・徳丸 2 階
園名	生活クラブ保育園ほむ・徳丸

1. 活動のテーマ

<テーマ>

花

<テーマの設定理由>

日頃の散歩活動で利用する緑道に多くの植物が植えられており、花が子どもたちにとってよく目にする身近な自然となっている。加えて室内活動で絵本図鑑の中で、時期的に実物として見る事ができていなかった朝顔について、子どもたちが興味を持った。朝顔を栽培することでの朝顔の成長や状態の変化、植物の育ち方について子どもたちの興味・関心をさらに深めるため。

2. 活動スケジュール

2025 年 5 月 種まき
2025 年 6 月
～ 水やり
2025 年 8 月
2025 年 9 月 色水遊び
2025 年 10 月
～ 絵本や図鑑、散歩活動でのさらなる探究
2026 年 3 月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子どもたちが安全に過不足なく道具を使用したり、自分の興味関心に基づいて自由に観察できる環境を整えた。

【素材・道具】

- ・朝顔の種 ・プランター ・栽培用土 ・支柱 ・子ども用じょうろ(ゾウさん型)
- ・絵本(図鑑絵本や植物を題材にしているもの) ・ペットボトル ・水

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

朝顔を種から栽培し、毎日の水やりや観察を通して、朝顔の変化や植物の成長について探究した。また、咲き終わった朝顔の花を使用した色水遊びや製作を楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【種まき】

活動時に朝顔の種を自分たちの手にのせて観察を楽しんだ。その時子どもたちには小さくて黒い種が、砂や石のように見えたのか転がしたり落としたりするような姿が目立っていた。そこで担任が「これが成長すると朝顔になるから、これは朝顔の赤ちゃんだね。」と話すと、途端に手つきが優しくなった。

【発芽】

種まきから 1 週間ほどで芽が出た。記憶が新鮮なうちに変化が起きたことで、子どもたちの喜びも大きかった。また、観察時に様々な発芽具合の芽があったことで、種から双葉になっていく過程を実物を見ながら知ることができた。また、この双葉観察をきっかけに、子どもたちが散歩活動で目にする公園の雑草にも「これも朝顔じゃない？」と興味を向けるようになっていた。朝顔の成長とともに違いには気づいていったようだった。

【水やり】

日々の水やりは子どもたちが実施。芽が出るまでの間は土に水をかけながら「出ておいで～」と声をかけていた。発芽後は「お水だよ～いっぱい飲んでね」や「大きくなあれ」と語りかけていた。

【開花】

初めて咲いた花の色は青色だった。子どもたちが栽培保育開始時から、“ピンクのお花がいい”と話していたことで、初めての開花にもかかわらず子どもたちの反応は薄めであった。しかしその数日後にピンク色の花が咲いたときは、初開花かのような盛り上がりを見せていた。

【色水遊び】

夏の水遊びの期間、子どもたちの中で水をジュースやゼリーに見立てる遊びが展開されたので、咲いた後の花びらを使用して朝顔のピンクジュースを作る色水遊びに取り組んだ。空きペットボトルに花びらを入れ、そこに水を入れて振るところを子どもたちが行なった。なかなか色が出ないことで子どもたちの中に飽きの表情も見られていたが、ある 1 人の子どもの水の色が変わり始めたことで子どもたちの表情も一変。その後「○○ちゃんもピンクになった！」と大盛り上がりの様子だった。出来上がった色水でジュースやゼリー遊びを楽しんだ後、家庭に持ち帰る用の小さな容器に子どもたち自身で移し替えた。最初から最後まで子どもたちがほとんど保育者の手助けなく自分で取り組んだことで“自分だけのもの”という気持ちが強く感じられていた。

【秋：散歩、室内活動】

朝顔の栽培を終えて以降、散歩活動などで目にする草花に、より一層興味を示すようになった。「この花はなんてお名前？」や「もう少ししたらお花が咲きそうだね」などの声が子どもたちから聞かれていた。また、室内活動では絵本図鑑への興味・関心も続き、朝顔を見て「これ〇〇ちゃんたちでお世話したね」など、出来事を振り返るような話も子どもたちの中で聞かれていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの興味を起点とした活動であったので、意欲・関心の強さを感じられた。また、より手をかけ達成感を得たものほど子どもたちが大切に扱うということを知ることができた。子どもたちによって気づく視点の違いや、表現の違いがあり、保育者にとっても実りのある取り組みになったように感じた。